

主題について

指導者 T1 小川美恵子

T2 宇多 弘典

ねらいとする価値

よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、様々な場面を通して理解し合い、助け合いながら信頼感や友情を育てていくことができるように指導することが大切である。

この内容項目は、友達関係において基本とされる信頼と切磋琢磨の精神をもつことを培っていくものである。低学年では、身近な友達と仲良く助け合うこと、中学年では、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことを中心に健康的な仲間集団を育成していくこと、さらに高学年では、異性に対しても信頼を基にして正しい理解と友情を育て、互いに切磋琢磨する真の友情を育てていくことが求められている。

児童の実態

- ① 児童は9月に「善悪の判断、自律、自由と責任」の内容項目で、正しいと思うことは、勇気をもって行動することについて学習した。この際、友達との関係で善悪の判断を決めていけないことを学習した。
- ② 本学級の児童は、友達の努力や功績に対して、自然に拍手が起るなど温かい雰囲気がある。その一方で、友達に注意する場面では、相手の為というより自分の利害にこだわって注意し、された方も素直にならず、切磋琢磨して共に伸びようとする風出になっていない。
- ③ 道徳科の時間では、教材の主人公と自分を重ねて考えられる児童が増えており、学習を終えての振り返りで、「自分だったら」「自分にも」と考えて価値理解を深めている児童が増えてきた。

教材について

本教材は、市の連合音楽会に向けて、楽器の苦手な主人公でつねに悩みが親戚に教える話である。つねは初め、自分の改善点を指摘的確なアドバイスをするなつみに対して、素直になれず腹立たしさを感じていた。しかし、親身になって関わり続け、上達していくのを自分のことのように喜んでくれるなつみに対して、次はなつみに自分が得意な鉄棒を教えようと考え始める。本学級の児童も、友達の注意や指摘に素直になれなかった経験があると思われる。つねの心の葛藤を見つめ友達の思いに気付いて変わっていく主人公の姿を共感的に考えることでねらいに迫ることができる教材である。

考え、議論する道徳の時間を充実させるために

○ 児童が実感を伴う納得解を得、実生活に生かすことができる道徳学習プログラムの作成

中学年になると、活動範囲が広がり、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。そのため、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを起こすことも少なくない。本来児童は仲良くなりたい、相手のことを思って、何とかしてあげたいという気持ちを持っている。その心の奥にある相手の思う心を意識させながら、実感を伴った信頼、友情についての価値理解を深めていきたい。そこで次のような道徳学習プログラムを作成する。

帰りの会で、日々の生活から友達のよさや優しさを見付け認め合う場を設け、日頃から「友達っていいな。」と言う土壌をつくる。学級活動では、係活動についてクラスのみならず楽しく生活しやすくなるためには、どんな活動内容にすればいいのか話し合わせ、班で協力して活動をする場を設ける。道徳科「ゆうきの心配」では、サッカーの練習試合を終えて、友達を遣わせないように、こっそり校庭の隅で怪我の手当てをする先輩の姿から、相手を思いやる方法いろいろあることに気づき、進んで親戚にしようとする心情を育てておく。また、体育科「ポートボール」の学習では、能力差のあるチームでみんなが楽しくプレーするためには、勝敗にこだわるよりも、得点するためにみんなで協力し合う楽しさを体験させる。今回の本時授業では、これらの学習を踏まえて、「ぼくらだってオーケストラ」の学習を行い、市の連合音楽会に向けて、練習を重ねるつねとなつみの心情を考えることを通して、友達と互いに理解し励まし合いながら、よりよい関係を築こうとする心情を育てる。自分の生活を振り返らせる際には、様々な場面の活動写真を提示し、これまで友情関係で構築されてきたことを想起させ、自分の思いをしっかりと語れるようにする。また、事前に、保護者に子ども時代の思い出に残っている友情物語を手紙で書いてもらい、読んで感想を伝え合う活動を取り入れる。保護者の友情物語を知ることで、真の友情について認識を深められるように、児童の心に響く終末にする。そして、道徳的実践の場として、歌声コンサートを位置付ける。みんなで成功させるために心を一つにし、保護者や地域の方で練習の成果を発表する場とし、仲間と協力して成し遂げる達成感を味わわせたい。

○ 発問の工夫

本授業は【A 共感的な発問】 【B 分析的な発問】 【B 分析的な発問】 【D 批判的な発問】 の順で4つの発問を計画している。初めに、主人公の心情にしっかり共感させる【A】の発問から教材に入る。そして、よりよい友情関係について多面的、多角的に考えられるように、主人公のみならず、主人公に関する登場人物の心情についても視点を変えて問うたり、互いの行為や行動のよさについて客観的に問うたりして、「信頼・友情」の価値理解を深めるものになっている。各発問の意図については、本時の学習展開に示している。

本時の学習

(1) 本時のねらい

市の連合音楽会に向けて、練習を重ねるてつおとなつみの心情を考えることを通して、友達と互いに理解し、信頼し、相手のことを思って励まし合いながら共に伸びていく関係を築こうとする心情を育てる。

(2) 本時の学習展開

過程	学習活動 ○主な発問 ●中心発問 ・予想される児童の心の動き	◇指導上の留意事項 □道徳学習プログラムとの関連 □発問の意図 *評価
気 付 く	1 よりよい友達関係であるためには、どのようなことが大切かについて考える。 ○ どんな友達がいると嬉しいですか。 ・忘れ物をしたときに貸してくれる。 ・一緒に遊ぼうと誘ってくれる。 ・困った時に助けてくれる。	◇ どんな友達がいると嬉しいか考えさせ、友達に求めるものを出し合い、ねらいとする価値への方向付けをする。 ◇ よりよい友情関係とはどんな関係か課題提示し、問題意識を高める。
よりよい友達関係とはどんな関係なのだろうか。		
と ら え る	2 「ぼくらだってオーケストラ」を読んで話し合う。 ○ なつみに指のことを指摘された時、てつおは何を考えたでしょう。 【A共感的な発問】 ・なんだよ、えらそうに。さか上がりもできないくせに。 ・うるさいな。ほっといてくれよ。 ・なつみさんに言われたくない。 ・弱点を指摘されると悔しくて腹が立つ。	◇ T1が教材を範読し、T2が、挿絵や文カードを提示し、教材の人物像や関係性を簡潔に知らせる。 □発問の意図 【A共感的な発問】 で、主人公てつおがなつみの指摘を素直に受け入れられない気持ちに共感させたい。児童は日々の生活の中で、友達から指摘されて素直になれない経験があると思われる。自分がてつおだったらと考えさせ実感が伴った共感をさせたい。
深 め る	3 市の連合音楽会に向けて練習を重ねるてつおとなつみの心情を考える。 ○ てつおが、「連合音楽会が終わったら、なつみさんに逆上がりを教えてあげようかな。」と思ったのはなぜでしょう。 【B分析的な発問】 補助発問 「てつおさん」は、「なんだよ、えらそうに。逆上がりもできないくせに。」と思っていたのになぜかな。 ・なつみさんのアドバイスのおかげで、いい音が出るようになったから。 ・楽譜にドレミをふってくれたから。 ・何日も練習に付き合ってくれたから。 ・親身になって教えてくれたから。 ・自分のことのように喜んでくれたから。	◇ てつおの心情の変化やなつみの思いなど視覚的に分かるように構造的な板書にする。 □発問の意図 てつおの心情の変化の理由を考えることを通して、なつみの行為や言動を振り返らせ、どれも 自分のためを思ってしてくれたことだ と理解し、信頼関係が芽生えていることに気付かせる。

	<p>○ なつみは、てつおに冷たい態度をとられたにもかかわらず、熱心に教え続けたのはなぜだろう。</p> <p>【B 分析的な発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てつおのリーダーを上達させたいから。 ・みんなで市の音楽会を成功させたいから。 ・てつおのことを本気で考えているから。 ・てつおの上達を信じているから。 <p>● 二人の友達関係についてどう思いますか。</p> <p>【D 批判的な発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てつおは、自分の得意なことでなつみに親切にしようとしていてえらい。 ・てつおは、初めはなつみに対していい思いをもっていなかったけど、なつみのよさが分かって素直になれた所がいい。 ・なつみは最後まであきらめずにてつおの上達を信じて励ましている所がいい。 ・なつみはてつおの上達を自分のことのように喜んでいて友達思いの所がいい。 	<p>□発問の意図</p> <p>次の2つの発問は、多面的、多角的に考えさせるための発問の工夫である。</p> <p>「なつみは、てつおに冷たい態度をとられたにもかかわらず、熱心に教え続けたのはなぜだろう。」【B 分析的な発問】の発問は、なつみに視点を変えてなつみの行為を支えているもの（てつおのことを本気で考え、てつおの上達を信じて相手のことを思っている行為であること）に気付かせる。そして、中心発問の「二人の友情関係についてどう思いますか。」【D 批判的な発問】の発問において、二人の行為や言動のよさを客観的に問うことで、友達と互いに理解し励まし合いながら目標に向かって共に伸びていこうとするよりよい友情関係について考えを深めさせたい。</p>
見 つ め る	<p>4 自分の生活を振り返り、よりよい友達関係について話し合う。</p> <p>○ よりよい友達関係とはどんな関係なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科「こわれた千の楽器」たちのように、足りないところを補い合える関係。 ・苦手なことから逃げずに友達と協力し合って頑張る関係。 ・ポートボールの学習みたいに、自分のことだけでなく、みんなが楽しめるように協力していく関係。 ・友達のことを考えて、いけないことはやめようと注意し合える関係。 	<p>◇ 様々な生活場面を想起できるように写真を用意し提示する。</p> <p>◇ 様々な生活場面を通して、友達と互いに理解し励まし合いながら、共に伸びていこうとする関係を築こうとしている児童の振り返りを全体に紹介する。</p> <p>* 真の友情について気付き、よい友達になるために自分はどうすればよいか考えているか。（道徳学習シート、発言）</p>
あ た た め る	<p>5 保護者の子ども時代の友情物語を読み、友達の大切さについて気付いたことを発表する。</p> <p>○ おうちの人の手紙を読んで感想を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんも、子どもの頃友達に励ましてもらって頑張ったことがあったと分かりました。 ・お母さんは、今でも小学校時代の友達と仲よしだと知りました。 ・友情は、大人になっても大切な思い出として残ることが分かり、今の友情関係を大切にしていきたい。 	<p>□家庭・地域と一体となった体験活動を含む「道徳学習プログラム」との関連</p> <p>事前に保護者に子ども時代の友情物語を手紙にしてもらい、それを読むことで、友情は大人になっても大切な思い出として残ることを知り、互いに理解し合い、協力し、切磋琢磨していく友情の大切さに気付かせる。</p> <p>◇ ゆっくりと手紙に浸れる雰囲気を作り、保護者の友情物語の中から、真の友情について感銘を受けた素直な感想を取り上げる。</p>

